

長野県の温泉概要

長野県薬務課長 藤岡 忠利

本県は、本州の中央部に位しており、東は埼玉，群馬，南は山梨，静岡，愛知，西は岐阜，富山，北は新潟の8県に隣接し地形は東西を短かく南北に長い。東西約120km，南北約212km，面積は13,584km²であって、北海道を除く46都府県のうち、岩手，福島につき，第3位の大きな県である。

本県は、日本の屋根と呼ばれていて、日本アルプス，南アルプス等はよく人に知られており、海拔3,000m級の高い山脈が四方をおおい、またこの地勢は諸河川の源をなしており、天竜川，木曾川の二川は南に流れて太平洋にそそぎ、千曲川，犀川の二川は信濃川となって北に走り日本海にそそぎ、本州の中央を分断する分水嶺となっている。

本県の気象条件は寒暑の差が大きく四季の変化は他府県に見られない自然美を有するとともに数多い観光資源を有している。

本県の温泉地数は昭和51年3月31日現在138ヶ所でこれは北海道に次ぐ第2位の温泉県である。

太陽と水と緑に恵まれた豊かな自然のなかの温泉は、数多くの県内外の人々に親しまれ、愛好されている。

源泉総数は全国第5位であり1,250本ある。うち枯かつ廃止源泉は342本あって全体の3割近くを占めており、特に主要温泉地に多い状況である。

総湧出量も全国第5位であり毎分約88,000ℓと増加しているが、全体の57%、50,541ℓは動力揚湯している。

泉温については利用できる源泉908本のうち42℃未満が309本あり、約34%は利用する場合加熱を必要とする源泉である。

泉質は単純温泉が多くその他では食塩泉，硫黄泉，硫化水素泉などである。

本県の温泉はほとんどの地域に多種多様な泉質が湧き出しており、それぞれの古い歴史と特色を秘めた伝統があり、健康の保持と増進に必要な成分，エネルギーを有していて、国民所得の向上と余暇の増大に伴う人間性の回復，楽しい憩いの場としての重要な役割を果している。

これらの温泉利用施設数は、宿泊施設数926ヶ所であり、温泉利用公衆浴場数は142ヶ所ある。

温泉利用者数は、収容定員71,040人，年間延宿泊利用人員は7,041,776人であり、これは1日当りにすると19,293人，1日当たり1施設約21人である。

以上が本県の温泉の概要であり、本県では温泉審議会から温泉保全総合計画の答申を得たので、学識経験者によって温泉プロジェクトチームを編成し、具体的推進を図るための検討を行いました。

愈々昭和51年度を初年度として温泉保護調査事業に取りかかった。

具体的には温泉定期調査，温泉地科学調査，温泉地総合需給計画樹立指導などである。

すでに上諏訪温泉では源泉をとめて近隣源泉の影響や賦存量のは握調査を行ない、下諏訪温泉に対する集中管理の指導講習会など着々と実施し、行政と業界が一体となって信州のイメージにふさわしい温泉地づくりを進めている。